

校長室より

「二松から飛翔へ」

二松学舎大学附属高等学校
校長 鶴飼敦之

令和5年度 終了式・表彰・離任式

1年間、納めの日は朝から雨となり、少し肌寒さを感じましたが、以前のような刺すような寒さは去り、玄関脇の桜のつぼみも開花の準備を始めているようです。

終了式に先立って、生徒表彰、賞状伝達が行われ、英検や学習状況、部活動などが表彰されました。終了式では、私からは「これから求められる力」と「凡事徹底」についてお話し、生徒指導部主任からも「春休みの過ごし方・挨拶の励行」のお話しがありました。

その後、年度末で本校を去られる先生方の離任式も行い、お言葉をいただくことができました。別れがあれば出会いがあります。寂しさはありますが、それぞれの先生のお言葉を受けて次に進んでいきましょう。

終了式要旨抜粋です。

皆さんは1年間の学習を終え、新たな学年へと進級し、一步を踏み出すことになるのですが、これまでの学び以上の新たなことを学習し、成長し新しいものを作っていく場面に出会うことでしょう。

その時に考えて欲しいのは、「ジグソーパズルを完成させる姿勢ではいけない」ということです。ジグソーパズルは決まった枠の中に自分の知識と判断力を使ってピースをはめ込んでいく作業です。すべてのピースのはめる場所が決められていて正解は一つだけ。これまでの社会はまさにジグソーパズルと同じで自分の持っている知識を如何に適切に使っていくかが重要でした。しかし、これからは、それぞれが持っている力で新しいものをどんどん創造していくことが求められます。

では、どんな力が必要なのか？ レゴブロックを聞いたことがありますか？ 皆さんの世代に馴染みがあるのは、マイクラフトというゲームかもしれません。レゴは自由な発想のもとでいろいろなものを作ることができます。レゴは組み合わせ次第で、出来上がる形は無数のバリエーションがあり、そこに正解というものはありません。正解も複数あれば、そこへのアプローチの方法も複数あり、その組み合わせは無量大と言ってもいいでしょう。それを考え出したり、工夫したりできる力、思考力、応用力、処理力、編集力…といったすべての力をフルに動員して辿り着く答えにオリジナリティーが求められる時代。皆さんの若い感性で自由な発想を大事に最大限生かしながら新たな課題に向かって創造的な活動をどんどん実践する。このことを忘れないでいて欲しいと思います。

今朝もいつものように玄関で皆さんと朝の挨拶を交わしました。本日のおはようカウンターは365でした。4月から折にふれ、話をしてきましたが、凡事徹底を実践していますか？ 凡事、当たり前のことの実践、その中でも挨拶は重要です。これからの社会で求められるコミュニケーション能力、相手と会話のキャッチボールをするためには、先ず挨拶が基本です。

来年度4月の始業式に登校する皆さんと元気に挨拶ができることを楽しみにしています。

ギター部卒業記念公演 in 中洲記念講堂

ライトアップの準備も整い、千鳥ヶ淵の桜祭りが開催され、いよいよ桜の季節となってきました。残念ながら寒の戻りで少し開花は足踏み状態のようです。

24日(日)ギター部の卒業記念公演に参加しました。

部内の各チームによる楽曲が披露され、後半は卒業学年の生徒中心の演奏が披露されました。この日のために一生懸命努力・練習し、仲間と共に合わせてきた成果を発表してくれました。入学時の懐かしいVTRも紹介され、卒業生たちは嬉し恥ずかしの表情を隠せない様子でした。在校生の贈る言葉を胸に二松学舎で培った力と仲間との友情を大切に、さらに飛翔してくれることを期待しています。

